

木造耐力壁の強さ日本一を決める第7回「カベワン GP」開催
AQ チーム匠、3年連続トーナメント優勝！！
木造建築普及のカギとなる「相欠き合わせ柱式ラーメン構造」で最強を証明

AQ Group（本社：埼玉県さいたま市西区、代表取締役社長：宮沢俊哉）は10月5日、6日にもものつくり大学（埼玉県行田市）で開催された木造耐力壁の日本一を決める第7回「カベワン GP（グランプリ）」に参加しました。AQ Group を主体とする「AQ チーム匠」は、東京大学木質材料学研究室・網中木材と決勝戦で対峙。大接戦を制し3年連続でトーナメント優勝を達成、耐力壁最強を証明することになりました。



AQ Group 本社ビルに採用された「相欠き合わせ柱式ラーメン構造」
大会仕様にアレンジした耐力壁「相欠きのジャンヌダイク」がNo1に

カベワン GP は耐力壁の日本一を決める年に1度のイベントで、全国の大学や専門学校、建築関係企業などが集まります。2体の木造耐力壁の柱脚を固定し、どちらかの壁が破壊されるまで互いを引き合うトーナメント方式の大会です。2日間に渡り全チームが組み立て、トーナメント予選、トーナメント本選、解体までを実施。材料費の安さや加工数の少なさ、組み立て時間や解体時間、デザインなども審査対象となっており、トーナメント優勝だけでなくトータルバランスに優れた耐力壁を称する総合優勝もあります。

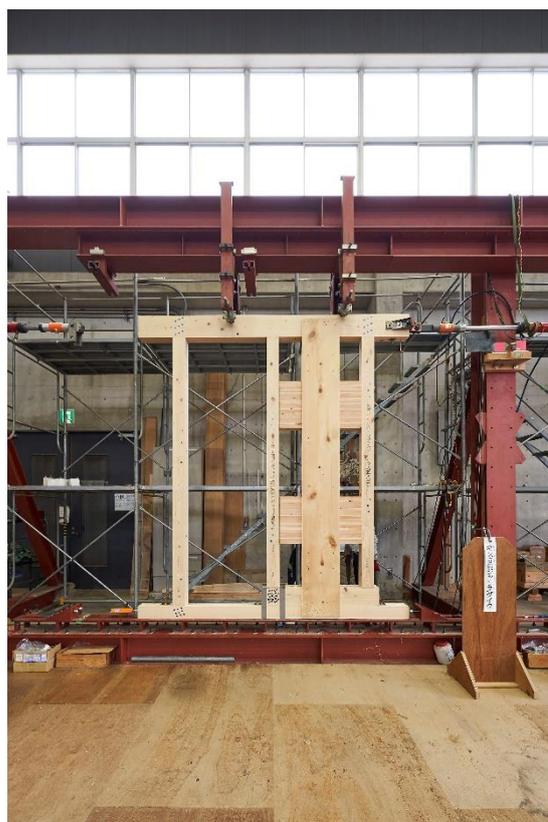
前回大会でトーナメント優勝と総合優勝を果たしている AQ チーム匠は、第7回目となる今大会も順当に勝ち進みました。決勝戦では、予選から圧倒的な強さを見せてきた東京大学木質材料学研究室・網中木材と対決。50kNを超えたあたりで AQ チーム匠の中柱に亀裂が入りましたが、そこから脅威の粘りをみせます。53.5kN前後で東京大学木質材料学研究室・網中木材が破損し、辛くも勝利。AQ チーム匠は2022年から3年連続でトーナメント優勝となり、耐力壁の強さ日本一の座を守り切りました。



白熱した決勝戦



解体作業も審査対象



優勝耐力壁：AQ チーム匠「相欠きのジャンヌダイク」

毎年、テーマに沿ったオリジナル耐力壁で出場している AQ チーム匠。今大会は、相欠き合わせ柱式ラーメン構造を大会用にアレンジした耐力壁「相欠きのジャンヌダイク」で参戦しました。相欠き合わせ柱式ラーメン構造は、2024 年 3 月に完成した AQ Group の純木造 8 階建て本社ビルにも採用されている技術です。日本の伝統技術でもある相欠き加工技術を使い、8 階建てのビルを支えるほどの高耐力を実現しています。

デザイン面は、木質構造現わしの美しさを兼ね備えています。相欠き部分の上下 2 ヶ所は、連なった十字部。この意匠をロレーヌ十字に見立て、ジャンヌダルクを連想しました。大工の手によって使い続けられた木構造の英雄と、中世ヨーロッパの古き英雄を組み合わせ「相欠きのジャンヌダイク」と名付けました。

阪神淡路大震災を教訓に、耐震技術開発を促進 27 年の歴史を持つカベワン GP と AQ Group



阪神淡路大震災の様子

カベワン GP は 20 年の歴史をもつ「木造耐力壁ジャパンカップ」を前身としたイベント。木造耐力壁ジャパンカップから数えると、今年で 27 年目となります。大会発起人は、東京大学名誉教授の稲山正弘氏で、1995 年に発生した阪神淡路大震災の後にささやかれた「木造は弱い」という偏見を払拭し、耐震技術開発の促進と技術者の育成を目的に 1998 年からスタートさせました。AQ Group も 20 年以上前からスポンサーとしても参加しており、学生や他企業と競い合いながら大会と木造建築の発展に寄与してきました。

AQ チーム匠は稲山氏とタッグを組み、複数回のトーナメント優勝や総合優勝を獲得。昨年は大会史上最大耐力となる 71.2kN を記録するなど、カベワン GP の“高い壁”となっています。カベワン GP に出場した多くの学生が卒業後、木造建築技術者として企業などの第一線で活躍しており、「打倒、AQ チーム匠」を目指してカベワン GP に参戦するケースもあります。

地震大国日本の家屋に必要なものとは AQ Group が考える、家の「強さ」と「自由」



本社ビルの相欠き合わせ柱式ラーメン構造



カベワン GP を技術発祥として完成した純木造 8 階建て本社ビル

AQ Group が手掛けた純木造 8 階建て本社ビルの技術も、カベワン GP が発祥です。耐力や破壊性状などの貴重な実践データを得ることができる場として、研究開発にも活用。中大規模木造建築を実現する「組子格子耐力壁」や、今大会でも活躍した「相欠き合わせ柱式ラーメン構造」はカベワン GP における実践から着想を得ています。本社ビルは「木のみ構法」という AQ Group オリジナルの構法で建築されていますが、これは日本で最も普及している木造軸組構法の技術をベースとし、中大規模木造建築の普及を目的として考案されたもの。稲山氏と AQ Group が共同開発しています。

また、AQ Group の注文住宅ブランド「AQURA HOME (アキュラホーム)」では、無駄な柱や壁を取り除き、大空間を実現させる「AQ ダイナミック構法」を採用しています。こちらも中大規模木造建築の技術を応用しており、従来、鉄骨造や RC 造でしか実現できなかった空間を木造で実現させる技術の礎になっています。

複数のプレートが重なり合う日本は地震大国です。日本の建築物は常に、地震に対応できる強さが必要になります。一方、建築物に強さを求めてしまうと、設計自由度が下がってしまうものです。木造建築の復興を目指す AQ Group としては「強さ」と「自由」が共存する建物が理想と考えます。大きな地震にも耐えることができ、建物に大空間をもたらす「相欠き合わせ柱式ラーメン構造」はまさに、強さと自由を兼ね備えた技術。木造建築普及の鍵になると期待しています。

< 本件について報道関係の皆様からのお問い合わせ先 >

株式会社 AQ Group 広報課 青木 佐藤

TEL : 048-620-4536

Email : aqura_pr@aqura.co.jp

AQ Group Website : <https://www.aqura.co.jp/>



AQ Group